

資料館等の 連絡先・開館情報

※詳細は各施設へお問合せください。

1 木曾山林資料館（旧木曾山林高等学校）

住所：〒397-8567 長野県木曾郡木曾町新開4236
木曾青峰高校新開キャンパス内
開館：毎週木曜日 9:30~16:30
休館：12月1日~3月末
入館料：無料
連絡先：0264-22-2007（携帯電話080-7886-2323）
HP：http://kisosanrin.org/

2 御料館（旧帝室林野局木曾支局庁舎）

住所：〒397-0001 長野県木曾町福島5471
開館：4月~11月は9:00~17:00まで
12月~3月は10:00~16:00まで
休館：月曜日
入館料：無料
連絡先：0264-23-2000 木曾町教育委員会
HP：https://www.town-kiso.com/facility/100023/

3 赤沢自然休養林森林資料館・森林鉄道記念館

住所：〒397-8567 長野県木曾郡上松町
小川入国有林 赤沢自然休養林園内
開館：4月27日~11月7日
入館料：無料
連絡先：0264-52-1133（一社）上松町観光協会
HP：http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/policy/
business/invitation/rekumori/akasawa/

4 大桑村歴史民俗資料館

住所：〒399-5501
長野県木曾郡大桑村大字殿1-58
開館：9:00~16:30
休館日：月曜（月曜祝日の場合は翌日火曜日）
及び、12月から2月末
入館料：大人200円、小人100円
連絡先：0264-55-1020 大桑村教育委員会
HP：http://www.kisoji.com/kisoji/history/ookuwa/
ookuwamurarekisiminzoku.html

5 南木曾町博物館歴史資料館

住所：〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻2190
開館：9:00~17:00（館受付：16:45まで）
入館料：大人600円 小人300円
連絡先：0264-57-3322
HP：http://nagiso-museum.jp/

6 山の歴史館

住所：〒399-5301
長野県木曾郡南木曾町読書2941-5
休館日：毎週水曜日と12月1日~翌年3月中旬の間
入館料：大人500円、中学生250円、小学生以下無料
連絡先：0264-57-4166
HP：http://www.town.nagiso.nagano.jp/kankou/
midokoro/nagiso/midokoro_34.html

木曾の歴史 林業の歴史

尾張藩時代

家康が子の義直に加封し、尾張領となる。江戸時代初期の城郭・城下町などの建設に伴う過大な木材需要は、木曾の森林資源を荒廃させていった。そこで尾張藩は1665年に留山制度を敷き、ヒノキをはじめとする「木曾五木」等の伐採を禁止した。この制度は、「木一本、首ひとつ」と例えられるほど厳しいものだった。

家康時代

関ヶ原合戦後、徳川家康は、木曾義昌旧臣の山村道祐を木曾代官に任じて木曾の山・川支配をゆだね、江戸城などの建設に備えた。

豊臣時代

豊臣秀吉は、それまでの木曾領主の木曾義昌を追放し、配下の石川光吉大山城主を代官として、木曾全域を自らの蔵入地（直轄地）として支配した。

1600

（慶長5年）

1615

（元和元年）

1671

（天明元年）

1871

（明治4年）

1889

（明治22年）

1947

（昭和22年）

御料林 木曾官林は皇室所有の御料林となり、明治23年には代々受け継がれるべき世伝御料林とされ、宮内省御料局（明治41年帝室林野管理局。大正13年帝室林野局と改称）の管理経営するところとなった。

官有林（官林） 明治2年の版籍奉還により、それまで各藩が所有していた藩有林が明治政府により官有林に編入され、木曾の美林もほとんど全部が編入された。

国有林 昭和22年帝室財産の解体令により、他地方の御料林とともに国有林に移管され、林野庁の長野営林局管内の木曾各営林署の経営となった。

知みんなってる？ 木曾五木 （きそごぼく）

資料／林野庁 中部森林管理局

- ヒノキ**
木曾のヒノキは、日本の木材の中で最も優秀なもの一つとされます。材は密で香りと光沢があり、とても強く、腐朽にもよく耐えます。
- サワラ**
日陰に強く、沢地などでも幹を直立させよく育ちます。水気に強いので、家具や建具のほか、桶の材料になります。
- ネズコ**
富山県の黒部渓谷に多いことから、「クロベ」という別名もあります。木材には独特の香りがあり、黒褐色の光沢があります。建具や下駄などに使われます。
- アスナロ**
別名ヒバ。日陰にとても強く、よく生長します。木材は水に強く、船の材料などに使われます。名前の由来は「明日ヒノキになろう」というところから。
- コウヤマキ**
和歌山県の高野山によく見られるのが名前の由来。一属一種で、日本特産の樹木です。木材は水に強く、船や桶などに使われます。

長野県内の「林業遺産」一覧

2013年度

- 木曾** 旧木曾山林学校にかかわる林業教育資料ならびに演習林
- 木曾** 木曾森林鉄道（遺産群）

2016年度

- 長野** 木曾式伐木運材図会

2017年度

- 木曾** 旧帝室林野局木曾支局庁舎および収蔵資料群
- 南信州** 遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群
- 上伊那** 進徳の森と中村弥六の関連資料群

信州木曾 林業の歴史を学ぼう



「林野庁中部森林管理局所蔵」
木曾式伐木運材図会・上巻5一元伐之図

信州・木曾地域の 林業の歴史を 辿ってみませんか

「木曾路はすべて山の中である」—
文豪・島崎藤村の小説「夜明け前」の冒頭の有名な一節です。
長野県の南西部に位置し、
中央アルプスと御嶽山系に挟まれた木曾地域は、
ヒノキをはじめとした美しい森林に覆われた山々に囲まれ、
面積の9割以上を森林が占めています。
この地域では、豊かな森林資源を活かして、
古くから林業が盛んに行われてきました。
今も、かつてこの地域で行われてきた林業の姿を垣間見ることのできる資料が各地に残っています。
このリーフレットを片手に、そんな場所を巡って、
木曾の林業の歴史や昔の人々の暮らしに想いをはせてみてはいかがでしょうか。

問い合わせ
長野県木曾地域振興局企画振興課
☎0264-25-2212 発行 2019年3月

